

# 2018 年大分大学生協 PC 講習会について

## 2 年スタッフが 1 年を通して得られた学び

木下 ちひろ\*1・高野 哲仁\*2・後藤 小春\*3・前野 智彦\*3・諸岡 祥太\*4

吉田 悟\*4・大久保 阿寿三\*2

Email: v1757314@oita-u.ac.jp

\*1: 大分大学生協生活協同組合

\*2: 大分大学理工学部創生工学科福祉メカトロニクスコース

\*3: 大分大学教育学部学校教育教員養成課程小学校教育コース

\*4: 大分大学理工学部共創理工学科知能情報システムコース

◎Key Words 大分大学生協 PC 講習会、独自カリキュラム、模擬講座

### 1. はじめに

大分大学生協では、PC 講習会を購入した新生を対象に PC 講習会と呼ばれる講座を運営している。スタッフは現役の大分大学生であり、現在、2 年生 6 名、3 年生 3 名、4 年生 4 名、院生 2 名、卒業生 4 名の計 19 名で運営している。今年度、私たちは「大分大学生協 PC 講習会を GA として運営できるのか」を目標に行ってきた。そこで、私たち 2 年スタッフが 1 年を通して PC 講習会を運営するうえでどのように成長し、何を学んだのかを考察し、今後の課題や展望を述べていく。

### 2. PC 講習会概要

大分大学生協は、毎年、新生に対して Windows と Mac の 2 種類を販売している。そのパソコンを購入した新生向けに PC 講習会と呼ばれる事業を展開している（以下講習会）。講習会では、Word、Excel、PowerPoint をはじめとした Office ソフトの基礎や応用、大学生にとって必要なスキルであるプレゼンテーションの仕方を学ぶ。また、新生向けパソコンの初期設定や、メールマナーやクラウドの利用の仕方、各学部のレポートの特徴など、大学生の学びたい内容も並行して学ぶことができる。今年度の受講生は Windows が 315 名、Mac が 72 名である。そのうち講習会だけ申し込んだ方が 32 名である。よって講習会では Windows と Mac それぞれのパソコンに対応した講座を展開している。

### 3. 講習会の流れ

講習会は 4 月から 7 月までの 4 か月の間に計 11 回開催している。4 月初めに新生が購入したパソコンの初期設定等のセットアップを行う。その後、Word、Excel、PowerPoint といった大学生活で必要不可欠な Office ソフトやパソコンを大学生活で使

いこなすための知識を 10 回に分けて教える。全 11 回の内容の説明を以下にまとめる。

#### 3.1 セットアップ

第 1 回は新生が自分自身のパソコンのセットアップを行う。講習会スタッフがパソコンの初期設定や Office ソフトのライセンス認証のサポートを行うので、パソコン購入者はすぐに授業等でパソコンが使えるようになる。

#### 3.2 PowerPoint

第 2, 3 回は PowerPoint 回である。第 2 回では講習会最初の回ということもありパソコン初心者が多く見られる。よって USB メモリの扱い方などのパソコンの基本操作を最初に行う。それから図形の挿入などスライドの基本編集方法を学ぶ。第 3 回ではアニメーションやスライドマスターといったスライド作成の応用機能と共に、プレゼンテーションで役に立つわかりやすいスライドの作り方を学ぶことができる。

#### 3.3 Word

第 4, 5 回は Word 回である。大学生活では様々なレポートを書くため、Word 回ではレポート作成の機能に特化している。第 4 回ではレポート作成に必要な基本的な機能や知識を教える。例えば、ページ設定や文字列の折り返しなどが挙げられる。第 5 回では均等割り付けなどレポートの体裁を整えるためのものやパソコンでの作業時間を大幅に縮めることができるショートカットキーを教える。また、レポート作成にはタイピングが必要不可欠である。そこでタイピング練習を各回の最初の時間に行っている。タイピングソフトを用いて練習するため受講生は自宅でもタイピングの練習を行うことができる。

### 3.4 Excel

第6,7,8回はExcel回である。第6,7回では大学生活含め日常生活でExcelを使いこなせるようになることを目標に、関数、グラフ、フィルター機能を学ぶ。第8回では第6,7回で学んだことを定着してもらうために確認問題を解いてもらう。

### 3.5 レポート

第9回はレポート回である。レポート回では受講生に学部ごとに分かれてもらい、学部ごとのレポートの構成や書き方を学ぶ。例えば、理工学部であれば実験レポートや観察レポートを、教育学部であれば報告型レポートを中心に学習する。

### 3.6 プレゼンテーション

第10,11回はプレゼンテーション回である。ここでは発表会等で必要なスキルを教える。例えば、聞き手が理解しやすい伝え方、話し手が話しやすい聞き方を教える。また第11回では実際に前に立って発表をしてもらうことで自分自身の課題を見つけると共に人前での発表という経験を得ることができる。

### 3.7 その他

上記で述べたもの以外に、一部の回でパソコンの豆知識を教えている。教授にメールを送るときに必要なメールマナーやクラウドの利用の仕方、パソコンを使いこなすための便利機能などを教えている。

## 4. 講習会の特徴

九州地方の大学生協が運営するPC講習会には「独自カリキュラム」と「共通カリキュラム」の2種類がある。大分大学生協では「独自カリキュラム」を採用しており、大分大学の学生生活で必要になる機能を中心に扱っている。それから大分大学生協のPC講習会では「講師・GA形式」、「操作ガイド」、「配布データ」、「TPシート」、「補講・振替・時間変更」といったものを活用して講習会を運営している。これらの説明を以下にまとめる。

### 4.1 講師・GA形式

受講生は10人前後を1班として分かれてもらい、各班に1人グループアシスタント（以下GA）がついている。大分大学生協PC講習会では、受講生の前で講師がスクリーンを用いて全体に大まかな説明を行ったあとに、GAが受講生により詳しく説明を行う。この形式のメリットとしては、班ごとにGAがついているため、「受講生のトラブルに対して迅速に対応することができる」ということが挙げられる。また全11回の講習会では原則受講生とGAが

変わることはない。そのためGAと受講生、あるいは受講生同士の交流が深まり、受講生により楽しく講習会を受けてもらうことができる。

### 4.2 操作ガイド

受講生には受講するにあたって紙媒体の操作ガイドを配布している（図1参照）。操作ガイドには、講習会で説明する機能の操作方法を丁寧にまとめている。これを見ることで受講生は、実際にその機能を実行できる。また講習会終了後に操作ガイドを見返すことで復習にもなる。

またPC講習会概要でも述べた通り、大分大学生協ではWindowsとMacのパソコンを扱っている。そのため右ページと左ページでWindowsとMacの操作方法を分けており、受講生にわかりやすく説明できる工夫をしている。

加えて、操作ガイドにはコラムというものを設けており、その機能を使う際に知っておくべき機能や知識、問題点が記載されているので、間違った操作をすることが少なくなる。



図1 2018年度操作ガイド

### 4.3 配布データ

受講生には講習会に自分のパソコンを持ってきてもらい、配布データを入れてもらう。配布データには練習問題と確認問題が入っている。操作ガイドを見ながら実際に操作することで、受講生は学びを深めることができる。また確認問題はその回で習った内容を再確認するために各回の講習会の最後に解いてもらう。

### 4.4 TPシート

講習会は、1週間の間に月曜から金曜で各曜日2回ずつ計10回行うため、同じ回でも実際に説明する講師・GAは違う。TPシートにスタッフが講習会を行う際の時間配分や説明内容、その時の注意点等記載することで、スムーズに講習会を進めることができる。

### 4.5 補講・振替・時間帯変更

受講生の中には急な用事等でいつもと同じ時間帯に参加できない人もいます。そのような受講生に向け

ての制度である。補講はいつもの講習会とは別の時間帯に行っており、講習会に参加できなかった受講生も参加できる。振替と時間変更は参加する講習会の曜日や時間帯を振替、変更することができる制度である。これらの制度を活用することで全ての講習会に参加することができ、Officeの基本操作を全てカバーできる。

## 5. 模擬講座を通して学んだこと

### 5.1 学んだことの判断方法

大分大学生協PC講習会では10月から翌年3月の間に講習会の準備をするとともに、1年スタッフ（現在の2年スタッフ）のGAとしての育成を行っている。その方法として1年スタッフがGAに、上級生が講師や受講生役になって、模擬講座を行う。模擬講座終了後、受講生役の方には5段階（5:良い～1:悪い）で講師・GAの評価をしてもらう。評価内容は表1にまとめている。

表1 評価項目

話し方 ・ 伝え方	声の大きさは適切か
	話すスピードは適切か
	明瞭で聞き取りやすい話し方か
	問の取り方は適切か
	具体性のある理解しやすい説明か
動作	受講生とコミュニケーションをとれているか
	説明している時・待機している時の態度は良いか
	トラブルへの対応はしっかりできているか
その他	TPシート通りに進められているか

上記の評価の結果より2年スタッフがどのように成長してきたのかを考察する。

### 5.2 結果

1月の評価結果の平均が以下の通りである。

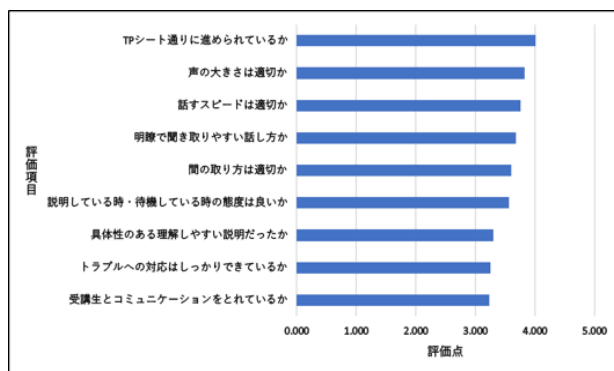


図2 1月時点の評価結果

図2より「受講生とのコミュニケーションをとれているか」、「トラブルへの対応はしっかりできているか」、「具体性のある理解しやすい説明だったか」

の3つの項目が他の項目より評価点が低いことがわかる。よってこの3つの評価項目に焦点を当てて、3か月の変化を見る。その結果が次の通りである。

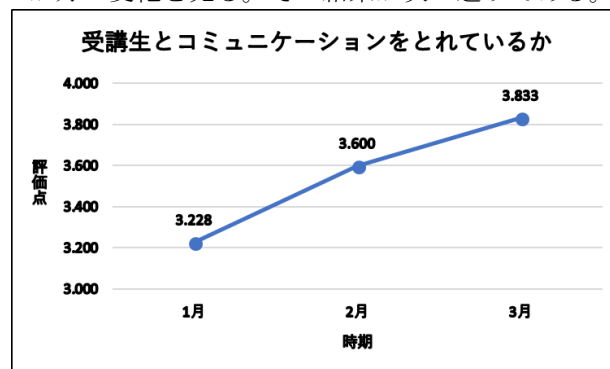


図3 受講生とコミュニケーションをとれているか

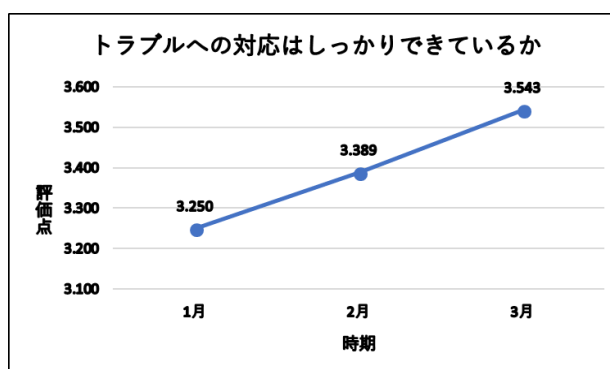


図4 トラブルへの対応はしっかりできているか

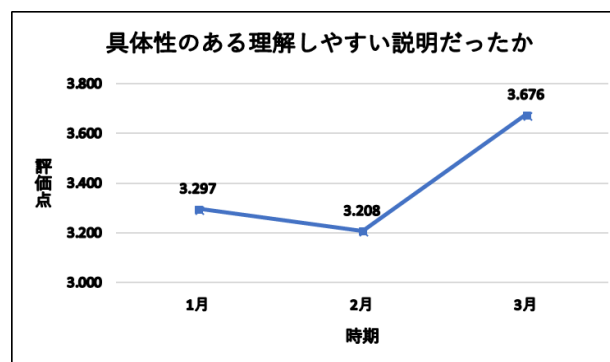


図5 具体性のある理解しやすい説明だったか

### 5.3 考察

図3と図4より、「受講生とのコミュニケーションをとれているか」、「トラブルへの対応はしっかりできているか」の2項目は、上昇傾向にあるため、2年スタッフは回を重ねるにつれて、受講生とのコミュニケーションの取り方や、トラブルを解決するための知識を学んだと考えられる。一方、図5より「具体性のある理解しやすい説明だったか」という項目に関しては全体では上昇傾向にあるが1月から2月に向けて下降傾向にある。この項目は他の2項目に比べて講座内容をしっかりと理解していないと評価が上がらない。よって、担当した回に対する準

備が足りなかったと考える。しかし、2月から3月には上昇傾向にあることから講習会前の準備の大切さを学んでしっかりと対策を行うことができたと考ええる。

#### 5.4 学んだこと

考察より2年スタッフは模擬講座を通して以下の3つを学んだ。

- ①受講生とのコミュニケーションの取り方
- ②トラブルを解決するために知識
- ③講習会前の準備の大切さ

#### 6. 2018年度PC講習会において

私たち2年スタッフは先ほど述べた3つのことを主に学んだ。これを2018年度PC講習会にどのように生かしているのかが重要だと考える。そこで2年スタッフがどのように生かしているかを表2にまとめた。

表2 2年スタッフの学んだこととその活用方法

学んだこと	活用方法
①受講生とのコミュニケーションの取り方	空いた時間に受講生とコミュニケーションをとるとき、模擬講座中に先輩から教えてもらった豆知識を披露できた。
②トラブルを解決するための知識	講習会は予想していたよりもパソコン初心者や苦手意識を持っている受講生が多かったため丁寧に説明する必要があった。模擬講座を通して対応力を学んだためそれを説明するときに生かした。
③講習会前の準備の大切さ	講習会では思わぬトラブルが発生することや受講生が例題を解くのに時間がかかることがあり、予定とずれることがあった。しかし準備をしっかりとしているため臨機応変な対応で進行できた。

#### 7. 今後の課題

上記でも述べた通り、私たちは準備期間に何度も模擬講座を行っている。その時に講習会で想定されるトラブルや質問も行い、それに対応する練習をしている。しかし、2018年度PC講習会が始まり、実際に新入生を相手にGAを行ったところ、新たな問題が発生して対応できなかったことがあった。例えば、「Officeのライセンス認証が上手くできていない」、「配布データが上手く読み取れない」などが挙げられる。また、講習会での1班の受講生の数は模擬講座の時に比べて2~3倍になっており、時間内

にトラブルを解決できないということが発生した。これらに関しては来年度から講習会に近い模擬講座を行えるように、今年度起こった問題をまとめて人数や環境をより近いものにすべきだと考える。

#### 8. 今後の展望

はじめに述べた通り、今年度の2年スタッフの目標は「大分大学生協PC講習会をGAとして運営できるのか」である。その結果、私たち2年スタッフは、講習会の運営はできるようになった。しかし上記でも挙げた通り問題点は多い。これらを少しずつ解決していく必要があると考える。

また、大分大学生協PC講習会スタッフとしての次の目標は「講師として講習会を運営できるのか」である。講師はGAと違い、講師次第でその講習会全体の雰囲気が変わる。そのため講師はGAとはまた違った知識や技術が必要であると考えられる。これからは講師としての目標も視野に入れながら受講生がより良く、より楽しく受講できる大分大学生協PC講習会を運営していきたい。

#### 9. おわりに

私たち2年スタッフは、模擬講座を通して、受講生とのコミュニケーションの取り方、トラブルを解決するための知識、講習会前の準備の大切さを主に学んだ。更に、学んだことはしっかりと2018年度PC講習会に生かされている。しかし今後の課題を解決するためには今年度発生したトラブルをまとめておくほうが良い。来年度はGAだけでなく講師として大分大学生協PC講習会を運営できるように技術と知識を増やしていく。

#### 10. 参考文献

- (1)加藤美喜子：“大分大学生協パソコン講習会について-今年度の振り返りと今後の展望-”，分科会発表論文集，pp. 1-3(2016)
- (2)阿濱志保里：“知的財産学習における反転授業の学習成果に関する研究-学習状況に応じた分類による学習者特性の分析-”，Computer & Education, vol42, pp. 49-54(2017)
- (3)大分大学生協：“2018年 大分大学生協PC講習会 PC講習会ガイド PowerPoint・Word編
- (4)大分大学生協：“2018年 大分大学生協PC講習会 PC講習会ガイド Excel・Report・Presentation編